

2021 (R3) 年度 親と子の都市と建築教室 (第 21 回) 実施報告 (大阪市 住まいと暮らしのワークショップ 2021)

報告者： 近畿支部常議員 吉岡聡司 (親と子の都市と建築教室 実行委員長)、志摩好宣、伊藤栄治

主催： 大阪市立住まい情報センター・(一社)日本建築学会近畿支部・(公社)大阪府建築士会
 今年のテーマ： 「大阪まちリニック～世界のまちをつくろう～」
 開催日時： 8月7日(土)・8日(日)、13:00～16:00 (二日とも同一内容)
 対象等： 小学生(保護者の方とご一緒に)、定員40名(各日20名)、参加無料。
 参加者数実績： 一日目は10組、二日目は18組
 スタッフ： 住まい情報センター；上田梓紗・本藤記子
 建築学会；伊藤栄治・佐藤裕一・志摩好宣・吉岡聡司
 建築士会；浅井駿平(全体統括)・神澤宏明・山本耕司・増田裕一郎
 学生ボランティア；河埜昂平(関西大)、豊田侑輔(京都大)、
 岡田哲・中尾知佳(近畿大)、梶浦健司(大阪産業大)ほか、当日合計12名
 (記名は準備会議からの参加メンバー)

今年で21年目となる大阪市立住まい情報センター(以下で「センター」と)と(公社)大阪府建築士会との共同主催によるイベントであり、一昨年度まではセンターのホールにて子どもたちが実際に集まって段ボールを使った子どもが入れる大きさの建物を作り、それらを見立てるワークショップであったが、昨年に続きコロナ禍の状況に鑑みて、オンラインでペーパークラフト+3D PDFをもちいる開催形式とした。

両日とも4班に分かれ、各班3～5名(一部に兄弟参加あり)の参加者を学生ボランティア(関西大学、近畿大学、大阪産業大学、京都大学)が束ねて、下記プログラムを進めた。多少の通信トラブルはあったが、参加者全員がペーパークラフト作品を完成させ、また京都大学 佐藤裕一先生による3D PDF(前半に各参加者が色塗りしたデータファイルを3D上で立体化)の画面共有も行われた。

ペーパークラフトの難易度を型紙に表示していたが低学年の子どもが難しいものを選びたがり組立てにやや苦戦したり、高学年の子どもが色塗りのアイデアに困って手が止まってしまったり、といったことはあったが、学生ボランティアの指導が極めてよく行き届いて、参加者はほぼ全員、イベントに満足したものである。

ごく基礎的な知識を学びつつ自由な発想を立体に結びつける経験や、他の参加者の作業や作品を互いに見ながらそれらが「まち」として集約されていく過程を経験したことは、参加者にとってほとんど他のイベントでは得られないと考えられ、学習と啓発の効果は大きかったと考えられる。

一方で、4月初頭以来隔週で10回ものZoom会合(19～21時)とスタッフ各自の準備作業が必要で、それぞれ少なからず負担があり、また学生ボランティア確保の継続性には長期的には課題が生じると思われる。オンライン開催に多少慣れてきた面もあるが、来年以降はコロナ禍の状況が好転していれば、元来の体感的な楽しさを取り戻すために対面開催へ戻すことや、互いに作業負担を軽減していくことも考えていく必要があると思われる。

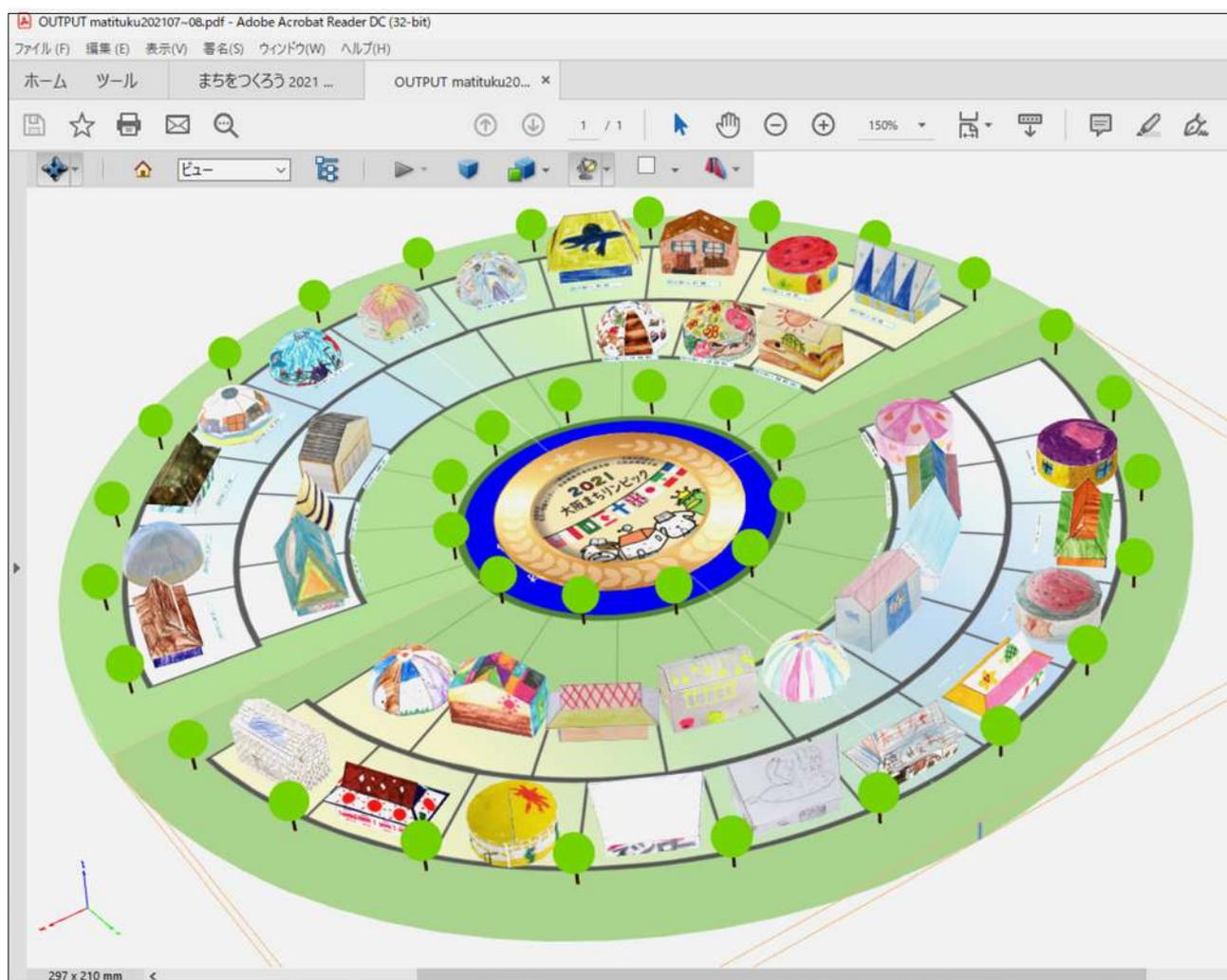
プログラム概要

- (1) 全体；開会挨拶、自己紹介、チーム分けや進め方の説明
- (2) 全体；紙芝居(建築士会；山本さん)

- (3) 全体；スライド学習「世界の家」（学生ボランティア；関西大 河埜さん）
- (4) 各班；各自ペーパークラフト型紙への色塗り作業（事前に参加者に郵送してあったもの）
- (5) 各班；各自の色塗り済型紙の写真を撮影し、センターへメール送信（二日間で2件ほど通信障害等トラブルあり）
- (6) 全体；スライド学習「世界のまち」（学生ボランティア；近畿大 中尾さん）
- (7) 各班；各自の色塗り済型紙を切抜き、組立て作業
【同時進行で、(5)の色塗りファイルを3D PDF化。京都大学 佐藤裕一先生のボランティア作業】
- (8) 各班；各自の作品紹介と班でのまとめ
- (9) 全体；各班リーダー（学生ボランティア）による各班の報告
- (10) 全体；講評と各賞発表、3D PDFの画面共有 → 図1参照
- (11) 全体；後日に参加者に郵送されるバッジとシールとパンフレットの説明、閉会挨拶 → 図2参照

各賞；後日に受賞を示すシールが送付された。

- ・まちリンピック2021大賞（両日ともに1班のみに授与。）
- ・みんなで走り切ったで賞／デザインアスリート賞／ホットでクールなアイデア賞／世界に誇れるで賞



（これら4つの賞は、両日とも4つの班に授与。）

図1 3D PDFの画面キャプチャ。2日分の参加者の作品。



図2 参加者の画面キャプチャの例

(以上、実施報告)